

# 「現代国語」指導の一方方法

はじめに

従来の国語甲のうちから、現代文および話し方、作文の学習を総合したものにあたる「現代国語」が独立した一科目として設けられ、本年度から実施されている。「現代国語」の総括的な目標に「生活に必要な国語の能力を高め言語文化に対する理解を深め、思考力、批判力を伸ばし、心情を豊かにして、現代の言語生活に適應できるようにし、それを改善しようとする態度や習慣を養う」の一項目があげられている。いうまでもなく、「現代国語」の学習は「現代文」の学習に終ってはならず、現代の言語生活に適應できる国語の能力を高める学習でなくてはならないのである。しかし「現代国語」学習の際の基礎的学習は現代文の読解からはじめなくてはならない。教材の内容を充分読解し、把握してそこから学習が展開して行くと考えるからである。したがって「現代国語」の指導法とかかかげたけれども、「現代国語」の基礎的学習の意味において、読解指導にかたよることをおこわりしたいと思う。

「現代国語」の学習にあたって、生徒たちは「生活に必要な国語力を高め、現代の生活に適應できるように」という目標をどれほど意識しているであろうか。よくいわれることであるけれども、むしろ

山 本 義 美

る「現代国語」なんか。」という他教科に対しての国語軽視、あるいは不満がある。しかし、例えば新聞の社説をどれほど読解できるであろうか。あるいは、自分の意見と事実を区別してどれほど適確に表現できるであろうか。学習しなくてはならないことがいっぱいある。社説やテレビの解説が理解できなくて、自分の考えをまとめて発表できなくて、現代の社会に適應していけるであろうか。学習者がわからないところ、意識していないことを捜してそれを教えなくてはならない。

それをいかに指導すべきか。指導の方法はとなると教師の側にもわからないことがいっぱいなのである。教師に学力さえあればよいという時代は過ぎ指導法の研究が必要な時代なのである。

増渾恒吉先生の提唱される「課題中心の国語教育」は「現代国語」の指導法に大きな示唆を与えられた。この報告はその試みである。

高校一年の教室で取り扱った、詩、論理的な文、小説の三例をあげて報告してゆきたい。

一 詩

川

千家元麿

## 川 川

おまえは波立ち

楽しんで走ってゆく

笛のように歌いながら

曲がったり、まっすぐになったり

少しも休まず

流れてゆく清い水よ

お楽しんでかららかに

みんなでおどり上って障害物を越えたり

輪を巻いて踊ったり

急に輪をほだいて走り出したり

狂うように楽しく興奮して

先へ先へと笛を吹いて走ってゆく

美しい水の精よ

純潔に平静に

かららかに屈託もなく

楽しい旅をしてゆく川よ

走れ、走れ

足並みそろえて

右の詩の取り扱いにあたって、どのような設問が設けられるであろうか。

(1)この詩はいくつの部分に分けられるか。

詩の学習にあたってその構成の把握は大切である。特にこの詩の

作者の意識の底には起承転結法がある。

第一段で「楽しんで走ってゆく清い川」を、それを受けていっそう具体的に部分的にこまかくとらえられ、第三段で、踊りながら走ってゆく美しい水の精を叙して、渦巻く急流のさまを述べている。第四段で再び川への呼びかけにもどり平野の静かな流れを歌っている。

(2)次の語は第二段でどのように具体化現実化されているか。

(イ)清い川 (ロ)楽しんで (ハ)走ってゆく

(1)の深まりとして設問(2)が用意される。普遍化の表現をとらえさせるのである。(イ)「清い川」は「清い水」にいい替えられ、(ロ)「楽しんで」が「笛のように歌いながら」と具体化され、走ってゆくも「曲がったり、まっすぐになったり、少しも休まずに流れてゆく」と具体化現実化されている。

(3)「障害物」は具体的には何を指すか。

(4)次はそれぞれ詩人のどのような気持ちをおあらわしているか。

(イ)輪を巻いて踊ったり、

(ロ)急に輪をほだいて走り出したり

(ハ)先へ先へと笛を吹いて走ってゆく

(3)は詩人のイズムの問題である。主題部との関連の上でとらえさせたい。具体的には急流の中の岩を指すのであろうが、人生の旅路における苦難の隠喩である。この苦難を人々とともに手を携えて乗り越え、ともに明るく人生を生きていきたいと願う詩人のイズムを把握させる。

(4)は作者の心情。ともに手をとり親しみあい協調しながら、その中にあっても個性的な自由な生き方をよしとし、よき意味での自由

な競争をよしとする詩人の心情の反映である。ここでは人道主義の文芸思潮の理解も加味したい。「人生の苦難」をみんなて手をとり合つて越えて行きたいと願う詩人の心は理解しても激しい競争に好むと好まざるとにかかわらず明け暮れている生徒たちには一様に首肯されえないけれども。ここに教材の時代性とともいふべきものを考えさせられる。

(5)「おまえ」を「君」「あなた」等のことばに置きかえたらどう違ふか。

語感に関する設問である。更に詩的效果、詩的技巧の設問として、

(6)終止形はいくつあるか。「たり」はいくつあるか。それらはどのような役割をしていふと思ふか。

などが考えられる。

この他ア段の音の多いことが喜びのあふれる詩の明るさを支えていることに気づかせる音韻の問題、作品に対する学習者の意見を聞く間も設けられよう。

## 二 論理的な文章

第二には、書物に対するには、まず心をむなしくしてその書物の中に没入しなければならぬということ、これが肝要であると私は考えます。中には没入できない書物があります。第一にはつまらない書物であります。この場合には、われわれはすぐさまページを閉じてよるしい。ただ一つの反省を忘れないなら——というのは、書物というものは、けっきよく現在われわれがある程度に従つてよい、それを受け取ることができないものである、自分自身の器量に従つてより、これを理解することができないものである、ですから、

つまらないと思ふことは、ほんとうにその書物の内容が自分以下であることも考えられれば、そうではなくて、われわれの理解を絶するほどに高い、また深いとも考えられるからであります。その反省をもし忘れるならば、大きなあやまちを犯すことになりかねない。しかし、そうかといつて、われわれは、自分がある程度にしかものを理解することができないのでありますから、正直に従つてよいと思つたら、それをどうしようもない。読む本はたくさんあることではありませんから、直ちにページを閉じて、他の本に向かつてよいのであります。しかしさらに、難解でその書物の中に没入できないといふこともあります。このむずかしいといふことも、実は単純ではない。こちらに罪がなくて、向こうに罪のある場合もあります。書いてあるほうがわかっていることを書いていたために、むずかしくなっているという場合がそれでもあります。哲学の翻訳書、翻訳書でなくても翻訳的な書物にはそういうものが多い。

(谷川徹三「読書について」)

この文は講演の速記に手を加えたものであつて、教科書に採録されている部分の構成は全体が序と本論から成り、本論は六段に分けられる。右に抄出した部分は、本論の二「書物の中への没入」について述べたその第一節「没入できない場合」の箇所である。

この文からは、どのような設問が考えられるであろうか。増淵先生は次のように述べておられる。「論理的文章にあつては、必らずといつてよいほど、『要旨』は、問題にされなければならない。中心思想である。要旨を明らかにするには、文章を、内容の上から細分して、それぞれの要旨を明らかにしておく方がよい。」(雑誌・

これに従って設問化すると次のような問が生れよう。

(一)右の文の要旨は何か。

(二)右の文を四つに区切るとすればどこで区切れればよいか。

「第一に」「しかし、そうかといって」「しかしさらに」等の接統語に注意すれば容易な問である。(二)の形を変えて「『第一には』を受けているのはどこか」としてもよい。「しかしさらに」で大きく曲折していることに気づくであろう。これが「第二には」となるべき所であって、この文を大きく二分するところである。つまり、没入できない書物とは第一につまらない書物、第二に難解な書物となり、これが(一)の要旨である。

さらに、文相互の関連に注目させる問として次のような問が考えられる。

(三)ただ一つの反省とはどんな反省か。本文中のことばで答えよ。

(四)大きなあやまちとはどんなあやまちか。

(五)どうして「むずかしい」ということも実は単純ではないのか。

この他文末部に対して注意させる意味から

内な反省が必要なのか。

の問を設けて「——からであります。」という理由説明のことばに注目させたい。いわゆる指示語の問題として、(五)の「こちら」「むこう」はそれぞれ何をさすかの問も考えられる。全体の見通しが充分できていないと、指示語を適格にいいあてることができない。論理的な文章では、指示語の設問は必ず設けなくてはならない。この抄出した部分では与えられないが、段落相互の関係を把握させる問も設けるべきであろう。

### 三 小説

「現代国語」における文学教育の中で小説の読解、鑑賞の占める位置は他のジャンルにくらべてやはり大きい。したがって高校入学後をはじめ取り扱う小説の単元ではやゝ形式的になるきらいはあっても、小説読解の入門的意味も兼ねて指導計画を練る必要がある。その意味で教室外の各人の読書方法とは相違するけれども主題のとりえ方鑑賞の基本的態度を身につけることを目標にしたい。

教材としては、現代の長編小説、井上靖の「あすなる物語」、さかのぼって大正期の短編小説芥川竜之介の「舞踏会」を取り扱った。その際の設問を抜粋してみよう。この設問は物語の進行に従って羅列されている。

(一)一年現代国語学習資料 (井上靖「あすなる物語」芥川竜之介

「舞踏会」の設問より抜粋)

教科書「あすなる物語」を読んで次の設問に答えなさい。

1 「あすなる」の意味を調べよ。

2 「溪林寺は、半島の西海岸の漁村漁村をまわる発動機船の発着所のある狩野川の河口近くにあった。」

右の文の修飾、被修飾の関係を明らかにせよ。

3 「鮎太はその日これから二年余りの生活を送る市に着くと、すぐ溪林寺に行って、そこにかばんを置くと、中学校に出かけて、転校の手続を終えて、午後の最後の授業に出席して寺の一間に帰って来たのである。」

イ右の文の主語述語関係を明らかにせよ。

ロ右の文から鮎太はどんな性質の人物と考えられるか。

4 「秀才でおとなしいんですって?」このことばには雪枝のどんな

気持ちがおこめられているか。またイントネーションを考えよ。

5 「さっそくですけど、お庭掃いてちょうだい。スパルタ式よここ」  
鮎太はびっくりしたが、その言い方は不快でなかった。ことばは娘として荒っぽかったけれど、表情は明るく絶えず顔のどこかの部分が笑っているようであった。

いなせ「その言い方は不快ではなかった。」と感じたのだろうか。

ロ「スパルタ式よここ」をどのような調子で読めばよいか。  
イントネーションを考えよ。

6 P 65 L 9 「言い方は、つっけんどんで容赦なかったが雪枝の口から出ると全然毒がなかった。」

右の文は会話の部分で、特にどの部分をさしているか。

7 P 67 L 4 「リーダーを暗唱します。」ということばは鮎太のどんな気持ちから出たことばと思うか。

8 上級生の行為を批判せよ。

9 P 68 L 17 「だからそんなばかことをするもんじゃあないの。わたしだって、それを聞いていたらなぐりたくなるわよ。」  
イ「そんなばかなこと」とは何をさすか。

ロなぜ「ばかなこと」と評価したのであるか。

10 P 70 雪枝と上級生の態度を効果的に描きだしていることばを指摘せよ。

11 P 72 鮎太の雪枝に対するかすかな熱情あるいは憧憬はどのように表現されているか。

(二) 教科書「舞踏会」を読んで次の設問に答えなさい。

1 「舞踏会」の イ時代 ロ場所 ハ人物 を明らかにせよ。

2 「おさえがたい幸福の吐息のように」はだれの気持ちを主として表現したものか。

3 「うわのそらの返事」をし「一種の落ちつかない心持」になり「いらだたい目をあげ」たのはなぜか。その理由となる語をあげよ。

4 若い燕尾服の日本人が明子を一瞥した後白いネクタイに手をやるのはどういう心理からだろうか。

5 次の語の反対語または対立語を示せ。

老翁 羞恥 権高 におおよう

6 P 82 L 9 「そしてまた」は次のどの意味で接続させるか。

イいたるところにといたるところに ロ咲き乱れていたと動いていた。 ハ菊の花の豪華さと豪華な夜会の婦人たちの装いや趣き

7 婦人たちのレースや花やぞうげの扇さわやかな香水のにおいは何を象徴していると思うか。

8 「彼女は手にしていた扇を預ってもらうべく隣に立っている水色の舞踏服の令嬢を振り返った。」上のような表現を散文直訳風の表現というが、他にこのような表現は見当らないか。

9 相手の将校はほおの日に焼けた、目鼻だちのあざやかな、濃い口ひげのある男であった。

右の文の主語、述語、修飾、被修飾の関係を明らかにせよ。

10 P 84 L 14 「今度は」に対応する前の語はどこにあるか。

11 P 85 L 10 「父親は明子の姿を見ると満足そうにちよいとうなずいた。」  
イ何に対する満足か。 ロ父親の「うなずき」にはどのような

意味が含まれているか。存在を確認するだけだろうか。

12 P 85 L 14 ~ 15 あるせつなには女らしい疑いもひらめかずにはいらなかった。

イ疑いの内容をいえ。ロまたこの疑いをどのようにたしかめているか。そのことばを抜き出せ。

13 「わずかにもう一つ残っている話題にすぎる」という部分に作者のどんな気持ちかひそんでいると思うか。

14 「わたしは花火のことを考えていたのです。われわれのヴィのよきな花火のことを。」

右のことばに将校のどのような思想が示されていると思うか。以上の設問について、どのような観点からこれらの設問が出されたか、簡単に説明を加えたい。

(一) 「あすなる物語」の設問について

(1) は主題部に関係があるが、発表段階としてでなく、物語への導入としての設問である。(2)(3) は文体に関する設問である。長い修飾語の文体であり、述語の重ねられている文である。これは井上端の個人的なスタイルである。小説のみでなく文章を深く味うためには文体を通してその表現の特色をとらえなくてはならない。(4)(5) は場を想定しながら読む習慣を養う。取り扱いとしては発表段階に属するものであろう。(6) の雪枝の心情は、淡いせん望、それが裏返しになった冷やかしあるいはおどろきであらう。(8)(9) は作品や作者に対する学習者の意見を聞くものである。その作品に対してどんな意見を持つか、どのようにとらえているかを知るためでもあるし、思索力を高め作者なり作品なりに対して持った意見を発表させる機会を与えんがために設けられた。したがって発表段階に取り扱うべき

もので、グループの意見交換を意図している。(10) は表現効果を吟味する。(11) は表現効果の吟味も含まれているが、この小説鑑賞の核心ともなるべきものである。鮎太の雪枝に対するかすかな慕情ともいべきものが、弧を描いて飛ぶ円板に象徴されているのである。雪枝の限らない力を感じ、その偉大さにあこがれを感じ、慕わしく思うのである。この小説の主題部にあたる。

(二) 「舞踏会」の設問について

(1) は主人公を取り巻く人物、環境が把握されればよい。どの小説読解にあたってでもまずなされなければならないことである。(2)(4)(11) は登場人物の心理追求である。小説を読む場合、人物設定のおもしろさとカストーリーのおもしろさのみとらわれるのでなく、登場人物の心理を読みとらなくては深く味わうことはできない。特に芥川の作品を読む場合心理追求は欠かせない。(8) は文体である。「舞踏会」は欧文脈がいたるところに見受けられ、多くの外来語とともに明治初期の欧化時代の背景にマッチし舞踏会のムードをかもし出す効果をあげている。この文体が芥川のスタイルでないことに注意させなくてはならない。(14) は主題把握であり、授業の核心ともなるべき所である。特に短編小説においては主題追求が鋭くなされなければならない。そこには作者の人生批評が、人生観が端的に示されているからである。「ヴィのような花火」には芥川の悲観的人生観をうかがうことができる。

四 学習者の感想とわたくしの反省

四月から七月まで一学期間プリント学習を続けて来た生徒の意見、感想を学期末に提出させた。西洋紙四分の一に無記名で自由に書かせ、特に項目は与えなかった。その主要な意見をあげてみよう。

概してその意見はこの学習法を嫌悪するものは見られない。

1 プリント学習の長所は予習のしかたがはっきりとわかって、無だなく必要なことを学習していけるので、学習の能率があがるということである。(男)

2 国語の勉強といえ、いつでも家で本を読んだり漢字を練習したり、語句の意味を調べたりすることでしたし、またそれしか知らなかった。ほかのことをしようと思っても何をどうすればいいのかわからなかった。その点プリント学習は予習の方法がわかっている。(女)

3 あの手プリントをするには最小3〜4回は教科書に目を通し、また音読しないとわからないので自然に読む力がつく。

4 設問によってどのような所に力を入れ、どのように受けとり考えてゆけばよいのかという一つの線が与えられた。それによって、予習、授業、復習と順調に理解できる。(男)

5 プリント学習の良い点はその作品について予習や復習ができること、時間中にききもらしてもプリントを見ればその時間の授業がだいたいわかるし、その中のわからない問題などは友達との意見の交換もできるので大変便利である。(男)

6 今までの中学での国語は先生の出された質問にその場で考えて答えを出すという学習であった。高校に入ってプリント学習が始められたが、家で考える時間が与えられているので、自分の本当の答が得られ実力のほどを知ることによい。

7 プリントで学習するようになって、国語の勉強のしかたがわかってきた。授業の内容もよくわかるし、予習、復習の手助けにもなる。質問されても予め考えて来ているので、確信をもって答える

ことができる。読解のポイントもつかめるようになり、国語の勉強がたのしくなった。(女)

8 今までは国語の時間には興味があつたがプリントによって教科書を調べているうちに興味がわいてきて、もう少し調べてみようという気になる。(男)

9 文章を深く考えながら読むようになった。 いねわりできなくなった。内職ができなくなった。

10 先生が教科書のある単元を通して何をいいたいか教えたかというところがよくわかるし、又著者、作者の態度もプリントの設問を説んでいっているうちにわかってくる。この章で重要なのはどういふことも自然にわかる。何も考えずに読んでいたら見逃してしまふようなことも設問を読んでから教科書にむかうと、特に注意するので作者の細い表現もつかみとることが出来る。設問を読んでから教科書にむかうのと漠然とただ読んでみるとでは、多分に相違がある。最初にプリントを説むとその課の予習が完全になる。

また興味もわく、授業時間が足りなくなってもむらなく学習ができる。その設問のわからないところやあいまいなところは授業中に聞きのがさないように講義がうけられる。一度プリントを調べると下調べになるので授業中の態度が能率的になる。今は練習の時期でもあるし、なるべく問題の数を多くして国語力をつけるようにしたい。(全文引用。女)

11 プリント学習は予習の方法がわかっていはいけれども、自分で大切なところを見つける力がなくなるのではないかと不安である。

(女)

12 プリントされるところさえやっておればよいという意識があ

って注文されたものを揃えるだけになり、受身的な学習態度へ進んでゆく傾向がないとはいえない。(男)

13 プリントの問題は、解釈、意味、文法、表現効果、その他種々様々、総合的でその配列にまとまりがない。

14 この方法は部分的なので全体を通しての文脈、題意、作者の意図する所等は読みとる力がつきにくく、中学並に一間一答式になりやすい。(男)

15 我々は国語だけやっておればいいのではない。数学と英語だけでも毎日三時間以上とられるのであるから、もう少し問題を少くして、よりすぐったものにしてほしい。わかり切った問題は省いてほしい。(男)

16 むりに宿題にさせない方がよい。宿題しらべもいやだし、やってこないと点をひくというのはごめんです。(女)

17 宿題として出されるとおもしろくない。指定されなくてもやるときにはやる。勉強を強制されるのはいやだ。やりたいと思う時でないとなんともあがらない。(女)

18 解答用紙を作るか、解答欄を作ってください。

19 解答は一つ一つ完全にしてほしい。解答をプリントして配って下さい。

20 一週間ぐらい前にプリントして下さい。

1 から10までは全面的にこの学習法を認めている者の意見感想である。まとめてみると

(1) 学習法が理解でき能率的である。

(2) 文章読解のポイントがつかえる。

(3) 授業中の質問に対して自信をもって答えることができる。

(4) プリントにより予習しているうちに国語に対する興味がわく。

(5) 疑問点を持って教室に臨むので、授業中おのずと真剣になる。等である。教科書があるから勉強しようでなくて、各自が問題点を持って何かを求めた学習になっている。つまり授業に出る姿勢ができています。

しかし、批判もないではない。すなわち、11から20までがそれである。まとめてみると

(1) この学習法にのみ頼る不安。

(2) 設問の配列が総合的である。

(3) 難易の開きがありすぎる。

(4) 宿題にするな。

等である。

11 2にみられるこの学習法のみ頼る不安すなわち、自分でものを見る目がなくなり、自発的な学習ができなくなりはないか、国語の学習が形式的な学習に終わってしまうかをおそれているのである。この不安除去の方法として設問作成に参加させることや、設問化の作業を国語教室の中に入れてゆくと考えられよう。13 14の批判は、国語教室の目標が多岐に分れ重点的でないことをいっている。設問は広範囲にわたって用意されなくてはならないが、教室で取り扱う場合は目標をはっきりと定めることが大切である。

15 は「数学と英語だけでも三時間はかかる。」という「だけ」に「現代国語」の学習を二次的に考え、他の学科に対しておろそかにしている傾向もみられるけれども、設問は充分考え、よりすぐったものに更に深いものにならなくてはならないと反省させられる。13 14は個人指導の方法によって解決される面もあろう。



総じて、思考力を高め、読解力をゆたかにする設問をできうるかぎり具体的な形で作ってゆくことが必要だと思ふ。生徒とともに考えてゆけるような設問、学習の中で問題が生まれ、その中で興味を感じるような設問を作ることがこの学習法を成功させることになる。

ただ、学力差の大きい教室では全員にすべてを課題することはやめなくてはならないと考へている。一つの設問についても受け取り方は違ふのである。学力差に応じたグループ学習、更には個人個人の求めに応じた学習へと進むことも考へられよう。

技術的には設問を頁を追って羅列するのではなく、

#### 1 予習の段階の設問

#### 2 核心の段階の設問

#### 3 発展の段階の設問

の順に設問を組まなくてはならないと考へている。そのためにはくり返しくり返し学習してもあきない反復学習に堪えうる教材であつてほしいと思ふ。

(38、10、23、)

(兵庫県洲本高等学校)